素晴らしい社会主義の国々
深い三池への理解
国際交流オルグ団から実情聞く

国際交流オルグ団は中国、ソ連、ドイツ共和国、チェコの四カ国を回って三池闘争支援のお礼と、今後の支援を訴え交流を深めて大きな成果をあげて帰国した。オルグ団は若松総評オルグを団長に石塚炭労組織部長、永田教宣部長、甲　中央委員会議長、南場主婦会長の五名であつた。こんど、各地域や職場での報告座談会が計画されているが、編集部ではとくに三氏に出席してもらつて座談会を行ない、社会主義国の目ざましい発展ぶりと、オルグの成果などについて話してもらつた。

上から永田、甲斐、南場

各地で盛大な歓迎

司会　皆さんご苦労さまでした。三池闘争国際交流オルグ団として約二カ月にわたる長い旅を終つて帰山されたわけですが、回られたそれぞれの国で非常に盛大な歓迎をうけ、三池闘争が深く理解され、つよい関心をもつてうけとめられており、今までもそうであつたがこれから先も支援を惜しまないということでたいへん力強い励ましを受けてこられたということでしたが、その点を話してもらいたいと思います。

永田　中国の場合は通訳が非常によかつたですね。二名ついてくれました。正直にいつてソ連のときは大学生、チェコでも大学生、ドイツでは六十歳の老人でした。その点で本当に十分な話ができたのは中国です。

中国での歓迎ぶりはものすごいものでした。例えば、ある工場に入つて行つたのですが、ここは紡績工場でした。到着したのと同時にドラや太鼓がどんどんなるので、私たちは何事だろうかと思つていると、それは私たちを歓迎しているのだということです。

晩になれば晩で二千名ほどの人たちが会場でものすごい拍手で迎えてくれました。またサークルの人たちはそれぞれのサークルで盛大に迎えるのです。サークルの中には手品をやるサークル、これは労働者の住宅だ。

よい、ただ連絡さえしてもらえば実力を込めて支援します」と真情こめてしみじみと話されたことでした。

それから李主席（炭鉱工会）がものすごく感激した態度で三つの提案をしたことです。これは嶺南炭鉱でしたがその地区の炭鉱労働者、代表者が全員出席していました。提案の三つは(1)三池の闘いをよく学ぶこと(2)代表団は人数は少いが総評、炭労、三池から来ておられるので何でもよく聞いて学び研究しよう(3)時間、場所の関係で全員を集めることはできなかつたが、今後広報紙に一人ひとりに十分自信のある説明をすること。以上三つを提案した根本的な理由は、三池の闘争により多く気をよせ、より深くより支持をし、今後の仕事に生かすことである。そのことが今後の三池支援を大きくする力にもなるということでした。この提案が行われると、一つひとつの提案に対して「よーし」と全員が返事をし、最後に李主席は「より多くのことを学び研究して全体の一人ひとりに話をすることについて点検してもよいか」というと、これまた「よーし」と返事がありました。そしてこのことは直ちに行動を起すことになりました。

あとで聞いたことでは、その日の夜から行動がはじめられたそうです。

甲斐　たとえば座談会で一番感じるのは、長い所では八時間ぐらいぶつつづけでやるのに、全員がノートに刻明にメモしていることです。そして、私たちの言葉に少し熱が入ると涙をボロボロ流して書きとつていました。それから過去、現在、将来にわたつて三池を支援しますと幹部はもちろん、みんなが実感をこめていつていました。

便所を掃除している婦人に「ご苦労さん」というと「私はこの工場の主人公です。働けば、それが自分のものになるのですから」と非常に明朗にいつていました。それとともに「三池が勝たなければ、自分たちの革命の真の勝利はなく幸福もありません。がんばつて下さい」と握手を求めてくるのです。

握手といえば、座談会が終ると全員が血のかよつた握手をしたいと、一人ひとり握手をしてかえり、中には強く抱きついて涙を流してかえつて行く人もいます。おそわることが非常にたくさんありました。

とくに気をつけねばならないことは数字をウカツにしゃべると向うから誤りを指摘されることです。たとえば話の途中で、総評三七〇万といえば「三月三十一日現在では少し減つているでしよう」といわれる。非常に科学的に正しく理解されています三池での差別攻撃のこと、生活などのことまでとてもくわしいのです。

日本の炭鉱労働者だけでなく、三池の労働者がこの闘いに完全に勝利の結論を出さなければ、せつかく勝ちとつたわれわれの革命は勝利とはいわれないということが、一人ひとりに徹底しています。三池の問題はとくに大きく取り上げられていますね私たちが道路を通つていると、どんな所からでもみんなが手を振つてくれます。

それと日本の場合は、組織の内部事情もありましようが、李主席が一カ月間も要務を投げうつて私たちを案内し、旅館も食事もともにすることなどは到底考えられないようなことです。日本でいえば原炭労委員長に当たる人ですが、私たちがソ連からかえつてくるときも、李主席は北京を離れていたが、わざわざかえつてきて飛行場まで出迎えにこられました。非常に考えさせられました。

頭がさがる革命の母

司会　主婦の目に映つた印度から南場さんにお話し願いましようか。

南場　李主席のことはまつたく感心しました。社会主義国が出来たということも、ああいう所に原因があるのではないかと頭の下がる思いがしました。

婦人の方たちと会つても、服装などにもあまりこだわらず、自分たちの国は自分たちで築くのだと非常に熱心によくこんで働らいておられます。

革命の母と呼ばれる老婦人たちの話を聞いたが、地下活動をやつているとき、自分の目の前で主人が殺され、自分も逮捕されたが、その時の傷で、手が不自由だといつておられました。それでも活動をつづけ、国の発展のためにいま一生懸命努力しているといわれました。また、ある紡績では自分の見ている前で主人が殺されたという婦人は、「一人殺されたことでみんなが幸せになるならと悲しみをふみこえてたたかいました。そして今も闘いをつづけています」といつておられました。

本当に三池も苦しいことがあるが、私たちもこのような気持を心に刻んでおかなければならないと思います。

また、中国では仲間同士で人の足を引ツ張るということがありません。いちきたなく人を傷つけたり、けなしたりするいびつな人間関係などないのです。よいことはみんながそれに賛成しています。こういう美点は見習わなければならないと思つてきました。

働らく婦人たちは質素な服装でがんばつています。とにかく、生産することで自分たちは世界の仲間とむすびあうことができるといつており、たとえば三池への支援も生産をつうじてそれができるのだといつています。働らくことによつて支援をするこれは学ぶべき言葉だと思いました。

甲斐　嶺南でとくに感じたのは、三池の主婦の南場さんに非常に期待をもつていたことでした。嶺南炭鉱のある唐山地方は、とくに主婦が一緒になつて闘つてきた所です。ここでは非常に搾取と労働強化がひどくて飯もろくにくわされないで、家族が一緒に寝ているが、翌朝目をさますとだれかが死んでいるというようなひどい目にあつているのです。

だから南場さんの話しを聞いて声をたてて泣いていました。南場さんの話に非常に感銘していました。そして「私たちも三池と同じように闘つてきました、婦人が強くならなければ闘争はなり立ちません」といつていました。

南場　ここの婦人たちも「今後も一生懸命やるように伝えて下さい。どんな場合も私たちは最後まで支援をします」といつておられました。

また、闘争は人がやつてくれるものではない。日本人は頭もよいし技術も高いから、必ず革命はできるのですから努力して下さいと、いわれました。

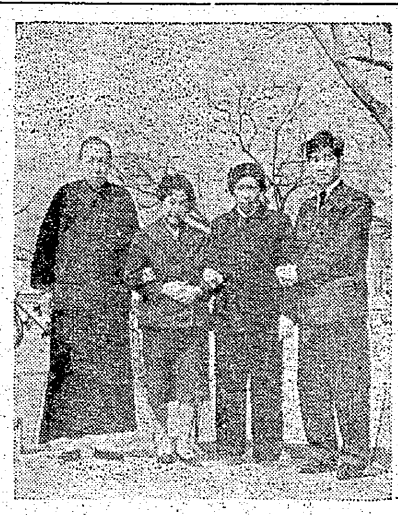
甲斐　中国は、苦しさを克服し団結して革命をやりとげたという経験からも、とくに三池の様子がよくわかるから、徹底的に三池を支援しなければならないということが、どこでも強調されていました。

南場　非常に謙虚に三池の闘いを学んで行こうという態度にうたれました。

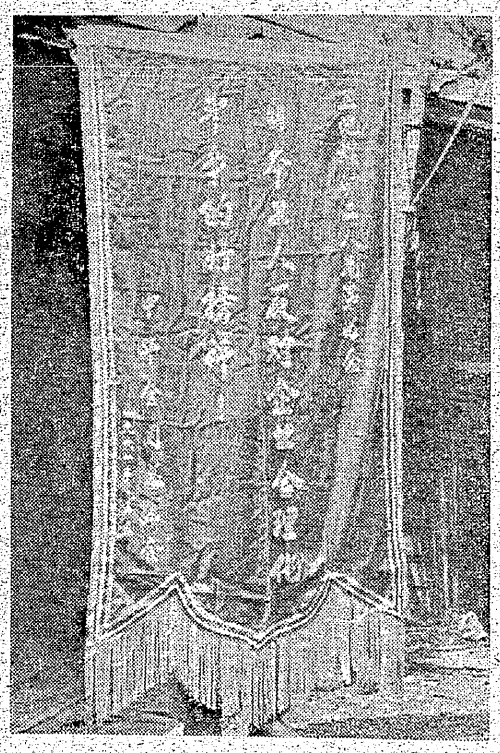
明るい将来の見通し

永田　副主相兼外務大臣の陳毅さんが、わざわざ私たちと会つて話されたのは、昨年は日本では久保さん、柳さん、浅沼さんが殺された。これは平和を守り、大衆の生活をよくするためだつた。それは尊い犠牲者である。ところで、中国のことをいうなら、何万という人たちが殺されていつた。日本でも、もつと弾圧され、苦しいことが続くでしよう。だが、必ず労働者階級はそれと闘つて前進します。

ソ連にしろ中国にしろ、それに耐えて勝利しているのです。その点では皆さんたちの闘いは見通しがハツキリしているといえるでしよう。皆さんたちが闘うときは全力をあげて支援します。だが、その支援にのりかかつていてはダメです。何より自分たちが闘つて行くことです。自分の力と闘いがなく、周囲の支援が中心になつて勝利をしても、それは将来に問題を残すのです……。という意味の話をされました。



革命の母とともに（左はし）



三池に贈られた労仂者最大の栄譽＝紅旗＝

面喰らつたキッス

司会　中国以外の他の国々ではどうでしたか。

永田　ソ連では大集会をもつて、そこで話をしたり、幹部と会つて話をしてきました。どこへ行つても〝三池の労働者が来た〟ということで、会場に入ると会場が歓声でワアーンとなる。このことは、三池の闘いをふかく理解していることのあらわれではないかと思います。

みんなの顔に、つよい連帯の気持がよくあらわれていて、どの集会も最後まで非常に熱心でした。

甲斐　言葉はわからないが、万国共通の手真似、目の色、態度からみて、たしかに三池闘争は理解されていることがわかり、今後の支援を惜しまないという言葉は、つよい実感をもつものでつたら、李主席は「世界の労働者は一つです。三池の労働者が弾圧されて、解放されないで世界の労働者の解放はありません。三池の労働者への攻撃は、中国の労働者に対する攻撃です。そういうときには三池への支援を昨年の倍にします」と約束してもらいました。

三池の闘いを自分たちの闘いだと理解していなければ、どんな約束はとてもできるものではありません。

目を奪う建設のテンポ

永田　中国ではいま三つのスローガンを掲げています。一つは給民公社。これらを指標にみんなが立ち上つています。

司会　人民公社の実態は――

永田　昔は地主が土地を支配していました。それを一緒に仕事を進めて共同管理にしているのです。広州で行つた所は、労働人口一万人で行つた所は、労働人思えばよいでしよう。それが一つの人民公社で、そこに修理工は農業の方が進んでいますね。どこの人民公社に行つても運河を何キロ掘つたとか、用水池にモーターを何台入れた、牛馬をどれだけ増やしたなど、その進み方がねずみ算式に倍加されています。工業の方では武漢で見たのですが、工場を建て、また屋根はできていないが機械は動かして生産を急いでいました。

すざまじい建設

甲斐　日本だつたら機械の据付けをして試運転までやるのに二、三年はかかります。中国では建物も出来上つてしまわないうちに生産は八〇％以上になつているわけです。それで、建物が出来上つたと同時に生産は一〇〇％以上になつているわけです。

永田　工場建設のときには、建設のテンポに合せて少しも変らないはやさで住宅が出来ています日本の場合だと考えられないことです。給路線できめたものを大躍進しようということで、その意欲はものすごいものです。すざまじい建設です。

共かせぎで家庭と国の建設

ではありまもん。二人で家庭と国の建設をしようというのです

守られる労働者の生命

永田　ソ連でも福利厚生面は実に徹底しています。炭鉱の救護隊を見せてもらい坑内にも下がりました。向うの人に上海炭鉱変災はどうして起つたかと文句を言う点です。がだ。これ完は

豊かで明るい東独

司会　先日の「くろだいや新聞」に西独から帰つてきた人たちの座談会を聴集し、その中で西ドイツは非常によく東ドイツは建設が遅れているということを言いていましたが。

甲斐　西独から帰つてきた者がどんなことをいつたか知らないがとにかく私たちは二週間前に帰国したんですからそれだけ話す内容も新らしいわけですよ。

西ドイツは日本とほとんど変りません。昨年六万人がクビを切られました。ただこれらの失業合めて就職させているのが日本と違う点です。がだ。これ完は

に飛び乗つて現場に直行するようになつていて、救護隊員も特別訓練を受けています。

人工呼吸も機械がやるようになつています。保安監督官も政府が任命したのと労働者が定めたのとあり、同一な権利をもつて監督に当つています。

東ドイツに呼んで新らしい着物を着させ遊ばせて、帰るときには衣服を新調して帰しています。

東ドイツで冗談話に出たことですが、三池の千二百名は家族ぐるみで来てくれないかと……。（笑声）

これはチエコでも同じですが、労働者の賃金はむしろ中国より余計あまるということです。大体一割から二割五分ぐらいが自家用車をもつています。まだ買いたいという人が多いが、製造が間に合わず割当がない人が大住宅に入つたのですが、応接セットをおいてテレビ、ピアノな